

2015年9月29日

報道機関各位

調査レポート

グラフで見る関西経済(2015年9月)

【今月の景気判断】

関西経済は横ばい圏で推移している。生産は、2015年1月をピークに減少しており、均してみると14年初め以降、横ばい圏で推移している。実質輸出は、今年初めに大きく振幅した後、弱含んでいる。雇用環境をみると、有効求人倍率や失業率などに持ち直しの動きがみられるが、賃金は現金給与総額が足下で減少しており、持ち直しが一服している。そのような中、個人消費は、持ち直しの動きが一服している。住宅着工は、消費税率引き上げ前の駆け込みの反動で減少した後、振幅しながらも総じて横ばい圏で推移してきたが、足下で持ち直しの動きがみられる。設備投資は、14年度は前年比で増加となったが、足下で持ち直しが一服している。公共投資は、横ばい圏で推移している。先行きは、海外経済の回復が緩やかにとどまる中で、輸出、生産など企業部門の動きが当面横ばいとなるだろう。関西経済は、横ばい圏での推移が続くと見込まれる。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	→		→	輸出	→		→
個人消費	→		→	輸入	→		→
住宅投資	↗		→	生産	→		→
設備投資	→		→	雇用	↗		→
公共投資	→		→	賃金	→		↗

(注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
 2. シェード部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気～減速する中国経済の行方。米国の金融政策と新興国通貨の下落。
- ・企業活動～生産、輸出、設備投資の動向。原油安と為替変動の影響。
- ・政策～安倍政権の経済政策・財政再建の行方、追加金融緩和の可能性。
- ・家計～実質賃金の動向と家計の消費行動への影響。

～本レポートについては最終ページ【「グラフで見る関西経済」の見方】参照

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

調査部 主任研究員 塚田裕昭

〒105-8501 東京都港区虎ノ門 5-11-2

TEL: 03-6733-1070

同時配布先：大阪経済記者クラブ、関西金融記者クラブ

【各項目のヘッドライン】

項目	8月のコメント	9月のコメント	ページ
1．景気全般	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	3～4
2．生産	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	5～7
3．雇用	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	8～9
4．賃金	持ち直しが一服している	持ち直しが一服している	9～10
5．個人消費	持ち直しの動きが一服している	持ち直しの動きが一服している	10～12
6．住宅投資	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	12
7．設備投資	持ち直しが一服	持ち直しが一服	13～14
8．公共投資	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	14
9．輸出入	輸出は弱含み、輸入は横ばい圏で推移	輸出は弱含み、輸入は横ばい圏で推移	15～16
10．物価	緩やかに上昇	緩やかに上昇	16
11．金融	預金は増加、貸出は横ばい	預金は増加、貸出は横ばい	17
12．倒産	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数は増加、負債総額は減少	17

（注）シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目（11.金融、12.倒産を除く）

（＊）参考資料：「グラフでみる景気予報」 → <http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan>

【前月からの変更点】

変更なし

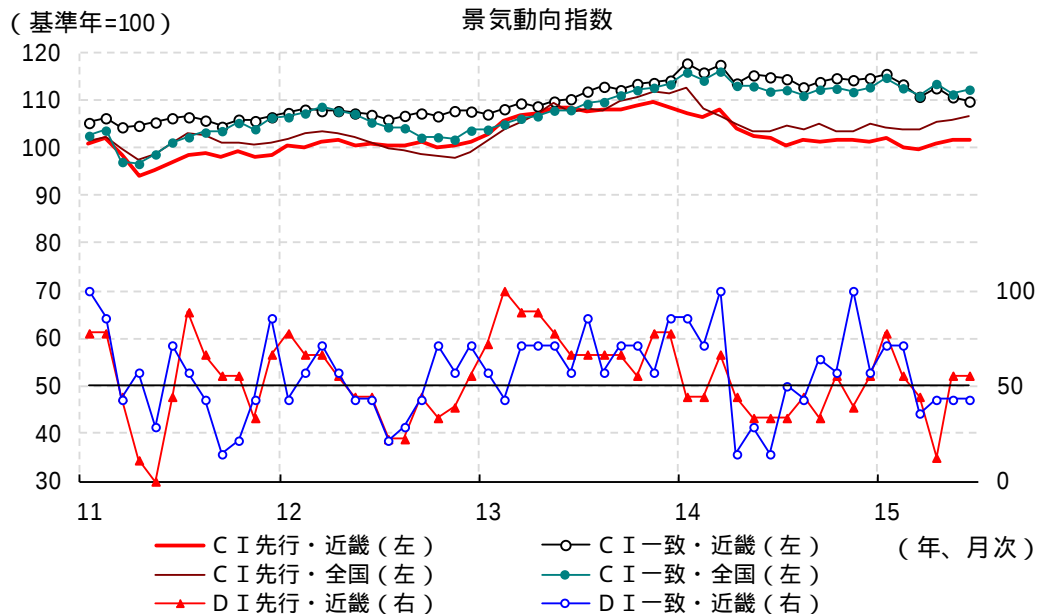
【主要経済指標の推移】

経済指標		14 4-6	14 7-9	14 10-12	15 1-3	15 4-6	15 3	15 4	15 5	15 6	15 7	15 8
景気全般	景気動向指数（近畿）C I 先行指数（05年=100）	102.8	101.1	101.4	100.6	101.3	99.8	100.9	101.5	101.5		
	C I 一致指数（ " ）	114.6	113.7	114.6	113.3	111.0	110.8	112.6	110.7	109.8		
	D I 先行指数（%ポイント）	37.0	37.0	50.0	59.3	41.2	44.4	12.5	55.6	55.6		
	D I 一致指数（ " ）	19.0	52.4	71.4	59.5	42.9	35.7	42.9	42.9	42.9		
	景気ウォッチャー調査（近畿）現状判断 D I（ " ）	45.8	50.0	46.7	51.9	53.8	54.6	54.9	53.1	53.3	52.4	51.4
	先行判断 D I（ " ）	53.3	51.8	48.9	54.2	54.7	55.5	56.1	53.7	54.2	52.6	47.3
	日銀短観（近畿）業況判断 D I 製造業（%ポイント）	4	2	7	4	2	5 <9月予想>					
	非製造業（ " ）	1	0	6	7	11	6 <9月予想>					
	法人企業統計（近畿）経常利益 製造業（兆円）	0.8	0.8	1.0	0.5	1.0						
	非製造業（兆円）	0.5	0.4	0.3	0.4	0.8						
生産	鉱工業生産（近畿）（季節調整済、前期比・前月比）	-0.6	-1.3	1.0	4.4	-2.6	0.6	-4.1	-1.2	1.7	0.2	
	鉱工業出荷（近畿）（ " ）	-3.2	-0.3	1.2	2.7	-2.7	-0.7	-2.1	-1.9	1.2	0.5	
	鉱工業在庫（近畿）（ " ）	1.2	2.2	-1.4	-0.1	0.2	-0.8	0.2	0.2	0.6	1.2	
	鉱工業生産（近畿）鉄鋼（ " ）	-2.8	-0.6	-1.9	1.3	-2.5	-0.7	-5.2	3.2	-2.1	-3.2	
	金属製品（ " ）	5.0	-2.3	-4.9	3.1	2.5	-3.2	11.0	-14.8	-11.2	26.6	
	一般機械（ " ）	0.7	0.5	-1.4	16.0	-4.5	14.1	-22.6	-4.2	10.9	-4.4	
	輸送機械（ " ）	-0.6	-4.4	0.3	2.4	-0.3	0.0	4.4	-7.5	0.1	-0.9	
	電気機械（ " ）	-2.0	-7.4	1.4	7.6	-7.9	-2.8	-15.3	10.4	-0.4	-2.4	
	化学（ " ）	-4.3	1.2	-1.5	5.6	-4.1	-8.0	0.8	1.3	4.4	3.0	
	大口販売電力量（関西）	-0.5	-3.7	-3.4	-3.9	-5.1	-3.2	-3.8	-6.9	-4.7	-3.6	
	大口販売電力量（関西）	-0.5	-3.7	-3.4	-3.9	-5.1	-3.2	-3.8	-6.9	-4.7	-3.6	
雇用	完全失業率（近畿）（%）	-0.1	0.2	-0.3	-0.4	-0.5	-0.8	-0.8	-0.3	-0.3	-0.4	
	就業者数（近畿）（万人）	875	871	875	880	867	886	874	864	864	849	
	雇用者数（近畿）建設業（前年差、万人）	4	-3	-4	-5	-2						
	製造業（ " ）	1	-4	-5	-6	-6						
	運輸業、郵便業（ " ）	8	-1	-2	4	-4						
	卸売業、小売業（ " ）	-1	-5	0	6	1						
	医療、福祉（ " ）	-2	-1	-5	-1	1						
	サービス業（医療、福祉以外）（ " ）	2	-2	3	1	-6						
	有効求人倍率（近畿）（季節調整値、倍）	1.01	1.03	1.04	1.06	1.09	1.06	1.08	1.10	1.10	1.11	
	新規求人倍率（近畿）（ " ）	1.57	1.57	1.63	1.66	1.70	1.69	1.71	1.69	1.70	1.72	
賃金	現金給与総額（近畿）	1.4	1.3	2.1	0.1	-1.3	-0.5	-1.0	-0.3	-2.1		
	所定内給与（近畿）	-0.2	0.5	1.0	0.9	0.5	0.2	0.2	-0.4	-0.5		
	所定外給与（近畿）	4.5	1.3	0.2	0.9	0.5	0.4	-0.3	2.2	1.0		
	勤労者世帯（含む農家）の名目収入（近畿）勤め先収入	-4.4	-9.4	3.5	3.5	5.8	7.1	4.1	5.5	9.6	11.4	
	定期収入	-2.0	-4.8	0.6	0.6	6.6	6.8	0.7	3.2	2.6	0.3	
個人消費	勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出（近畿）	-1.5	-1.5	-2.3	0.7	1.5	1.8	-1.7	13.3	-6.4	-2.0	
	大型小売店販売状況（近畿）百貨店＋スーパー	-3.2	0.6	0.5	-7.8	-5.1	-13.9	9.6	6.0	-0.4	1.9	
	コンビニエンス・ストア販売状況（近畿）	7.6	5.8	6.6	6.9	5.7	-0.8	3.8	2.0	1.1		
	家電販売額（近畿）	-14.3	-8.3	-9.5	-32.8	5.5	-44.1	15.4	17.2	-10.4	0.8	
	新車登録台数（近畿）	-4.2	-3.0	-5.3	-16.2	-5.0	-13.9	-8.1	-5.3	-2.4	-7.1	
	消費者態度指数（近畿、一般世帯）（原数値）（ ）	39.3	40.9	38.0	39.6	40.9	41.0	40.8	40.7	41.2	40.8	41.7
住宅投資	新設住宅着工戸数（近畿）（季節調整済年率換算、千戸）	144.3	132.9	128.1	127.9	143.2	131.9	123.9	139.4	166.4	128.3	
	（前年比、%）	-2.0	-8.6	-20.5	-8.2	0.1	-3.0	-20.9	3.2	19.2	1.7	
設備投資	法人企業統計季報（近畿）設備投資 製造業	8.9	10.4	14.0	-8.8	-12.4						
	非製造業	-0.7	-22.8	0.5	-1.4	-4.6						
	企業立地件数（近畿）（件）	—	—	—	—	—	28	14				
公共投資	公共工事請負額（近畿）	22.2	-0.8	-6.4	-19.0	7.7	-14.9	40.9	-26.5	6.4	-18.2	-11.6
輸出入	実質輸出（近畿）（季節調整済、10年=100）	100.1	99.7	103.6	106.9	101.4	103.9	102.7	101.0	100.3	99.4	101.9
	通関輸出（大阪税関）輸出総額	3.7	4.8	10.8	9.7	5.2	7.9	5.4	2.7	7.3	4.9	2.0
	実質輸入（近畿）（季節調整済、10年=100）	115.2	114.2	115.2	119.4	111.9	107.5	112.6	113.6	109.4	116.1	117.2
	通関輸入（大阪税関）輸入総額	5.2	3.0	2.1	-6.1	-5.7	-14.2	-4.3	-8.2	-4.7	-0.6	0.3
物価	消費者物価指数（近畿）生鮮食品を除く総合	3.2	2.9	2.5	2.0	0.3	2.0	0.3	0.2	0.3	0.1	0.2
	食料及びエネルギーを除く総合	2.2	2.2	2.0	1.9	0.5	1.9	0.3	0.5	0.6	0.6	0.8
金融	国内銀行預金残高（近畿）	1.0	1.0	1.4	1.8	1.5	1.7	1.8	2.7	2.5	3.2	
	国内銀行貸出金残高（近畿）	2.1	2.0	0.8	2.3	1.1	2.1	0.6	0.2	0.1	0.1	
倒産	倒産件数（近畿）	-6.3	-3.9	-10.3	-8.8	-12.2	26.1	-19.6	-8.0	-7.3	-6.9	3.0

（注）括弧書きのない場合は、単位は前年比、%
消費者態度指数は、13年3月までは訪問留置調査、4月以降は郵送調査の値。

1. 景気全般 ～横ばい圏で推移している

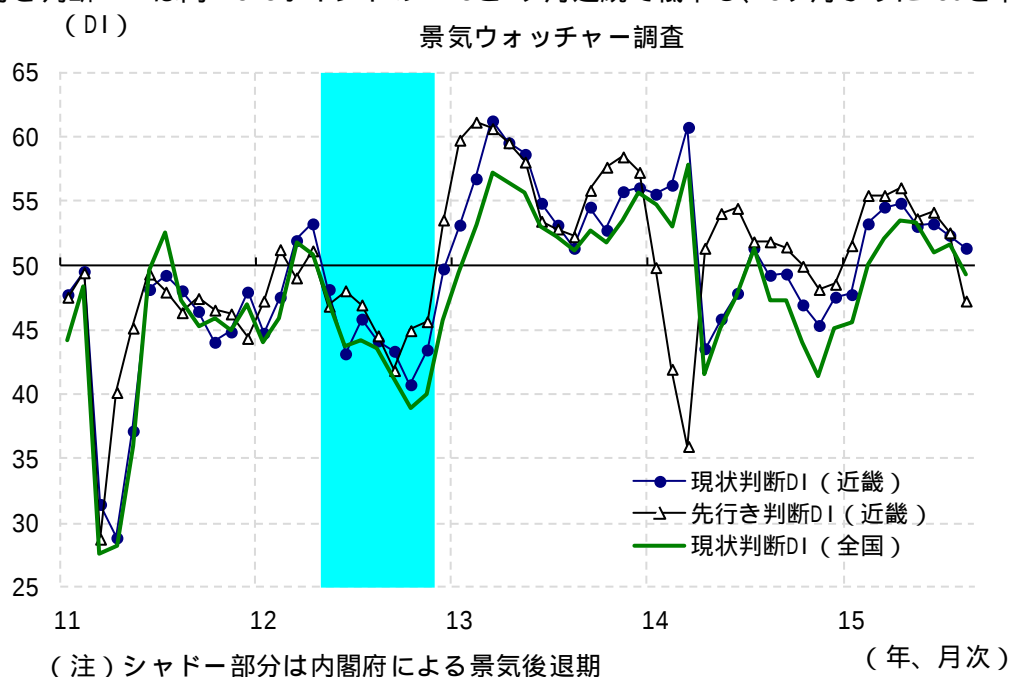
- 6月の近畿地区の景気動向指数・C I一致指数は前月差 - 0.9ポイントの109.8と2ヶ月連続で低下した。採用7系列のうち、輸入通関額、鉱工業生産指数、鉱工業出荷額指数がプラスに寄与したが、百貨店売場面積当たり販売額、有効求人倍率など4系列がマイナス寄与となった。一方、C I先行指数は前月と同水準（101.5）となった。採用9系列のうち、新設住宅着工戸数など2系列がプラスに寄与した。



（注）C Iの基準年は2010年。

（出所）大阪府「近畿地区景気動向指数（C I・D I）の動き」、
内閣府「景気動向指数」

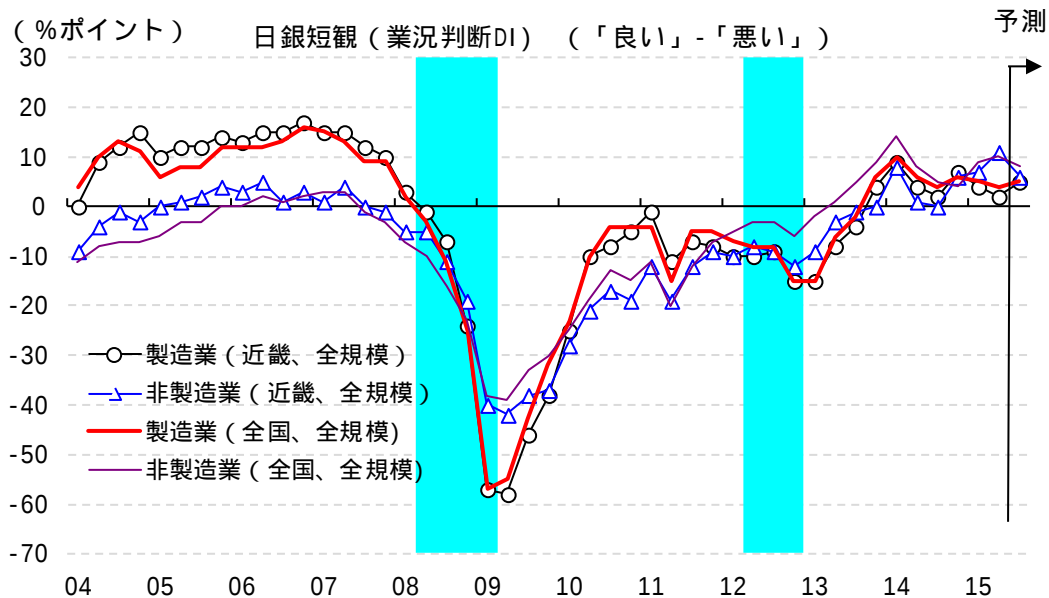
- 景気ウォッチャー調査によると、8月の近畿地区の現状判断D Iは前月差 - 1.0ポイントの51.4と2ヶ月連続で低下した。景気の横ばいを示す50を7ヶ月連続で上回ったが、昨年11月を底にした持ち直しの動きが一服している。家計動向関連の現状判断D Iは同 - 0.8ポイントの50.4と2ヶ月連続で低下した。先行き判断D Iは同 - 5.3ポイントの47.3と2ヶ月連続で低下し、8ヶ月ぶりに 50を下回った。



（注）シャドー部分は内閣府による景気後退期

（出所）内閣府「景気ウォッチャー調査」

- 日銀短観6月調査によると、近畿地区の業況判断DI（「良い」 - 「悪い」）は全産業（全規模）で+7と3月調査比で1ポイント上昇し、7四半期連続でプラスとなった。製造業（全規模）は+2と2ポイント低下、非製造業（全規模）は+11と4ポイント上昇した。先行きについては、製造業では改善が見込まれているが、非製造業では悪化が見込まれている。



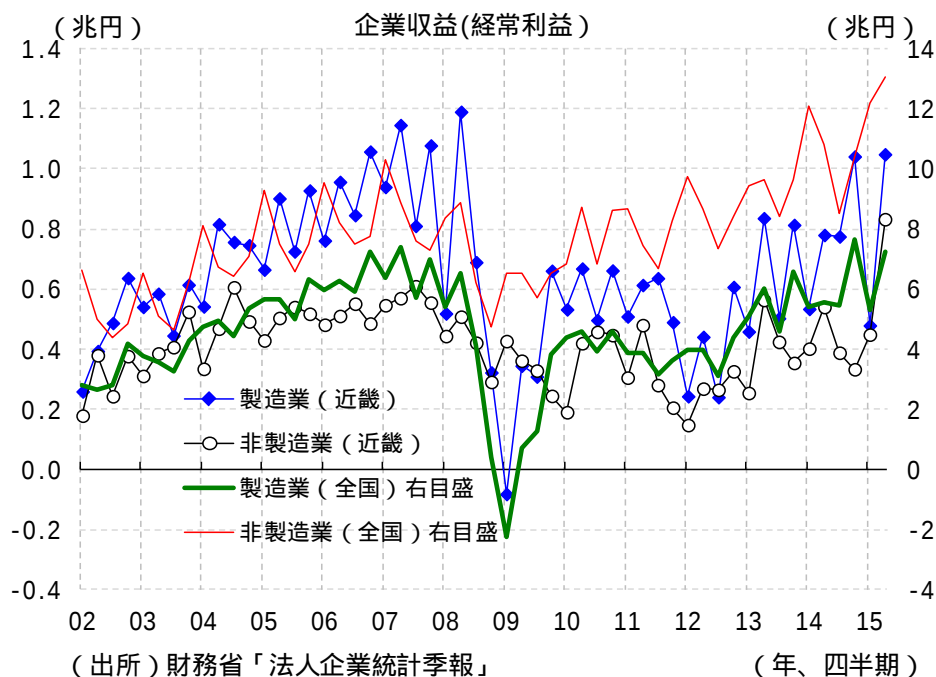
（注1）シャドー部分は内閣府による景気後退期

（年、四半期）

（注2）2004年3月調査、2007年3月調査、2010年3月調査、2015年3月調査時点で、調査対象企業の見直しが行われたため、前後の系列にギャップがある

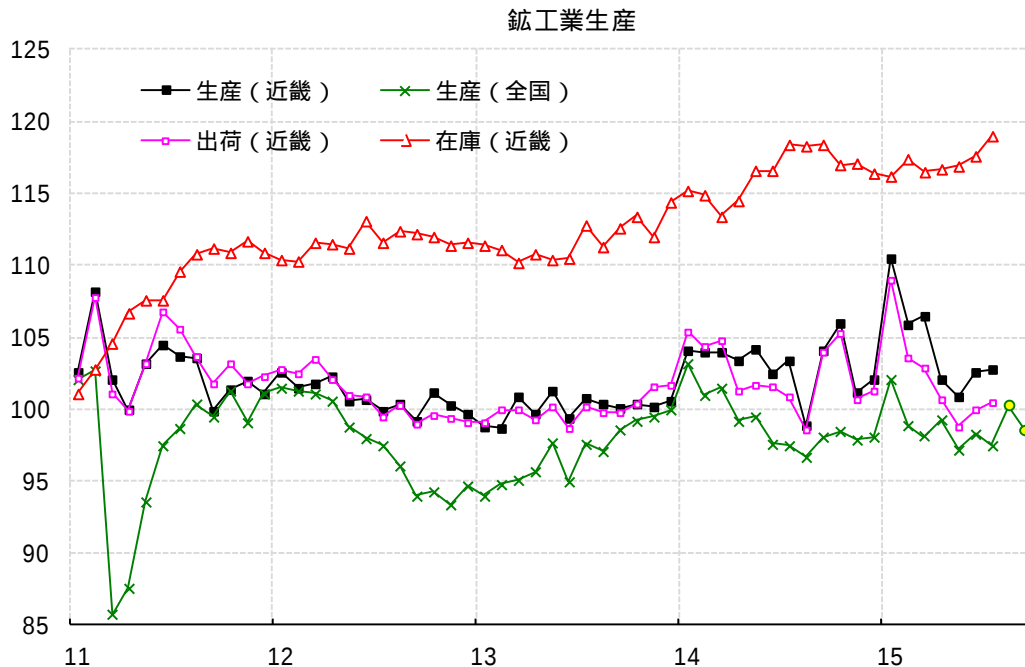
（出所）日本銀行大阪支店「企業短期経済観測調査（近畿地区）」

- 2015年4～6月期の近畿地区の大企業の経常利益（全産業）は、前年比+42.4%と2四半期ぶりに増加した。製造業は同+34.4%と2四半期ぶりに増加し、非製造業は同+54.0%と2四半期連続で増加した。日銀短観6月調査では、14年度の経常利益は全産業・全規模で同+17.2%と大幅増となった。15年度は同-1.1%と減益見込みとなっている。

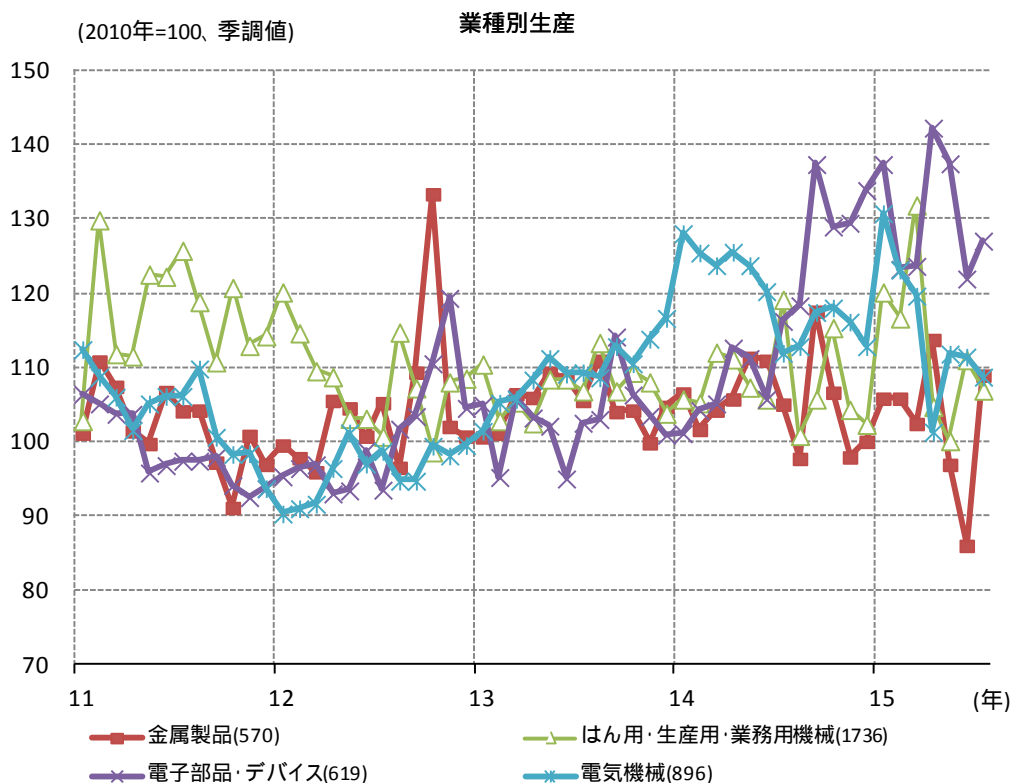


2. 生産 ～横ばい圏で推移している

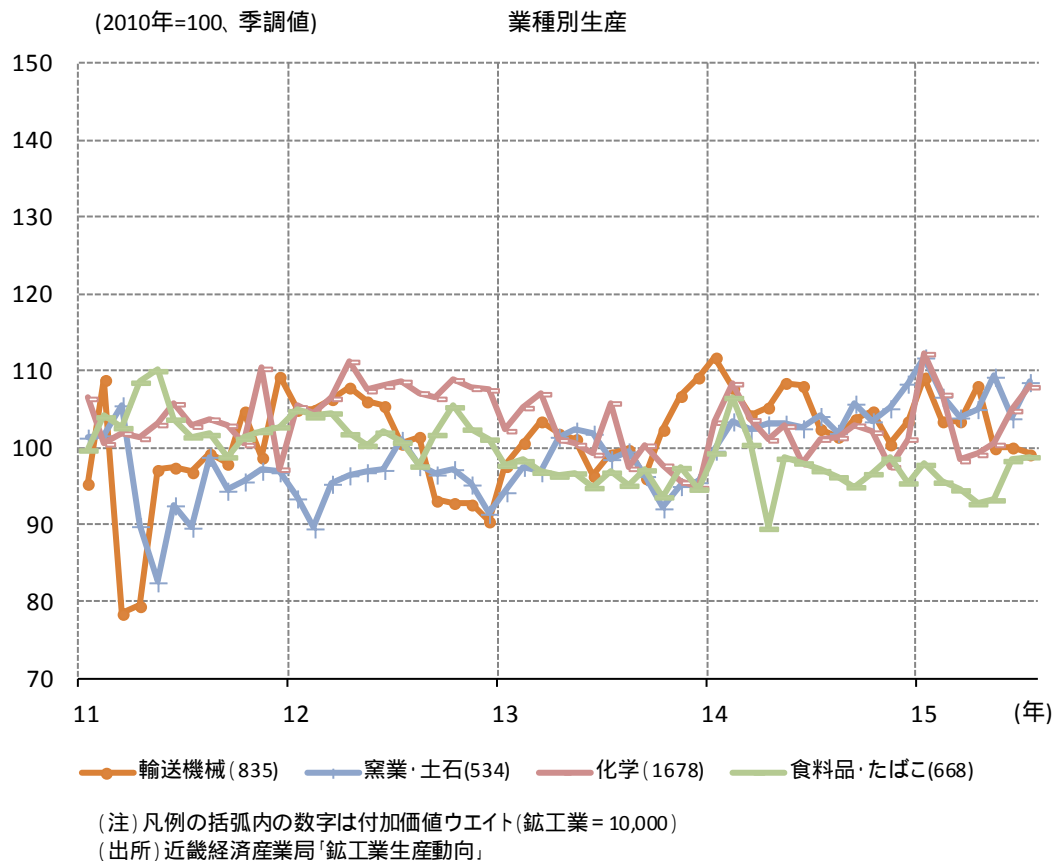
○7月の近畿地区の鉱工業生産は前月比+0.2%と2ヶ月連続で増加した。はん用・生産用・業務用機械、電気機械などが減少したが、金属製品、化学（除.医薬品）、電子部品・デバイスなどが増加した。近畿の生産は、昨年1月以降、上下に振れながらも均して見ると横ばい圏の推移が続いている。今後も世界経済の回復は緩やかであり、生産は横ばい圏での推移が見込まれる。



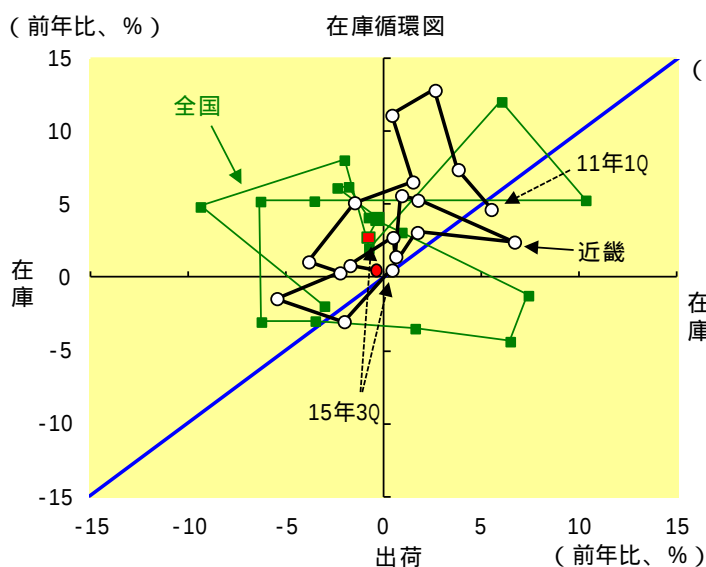
（注）生産（全国）の「○」は製造工業生産予測調査結果から試算した（年、月次）
 予測基準年は2010年
 （出所）近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」



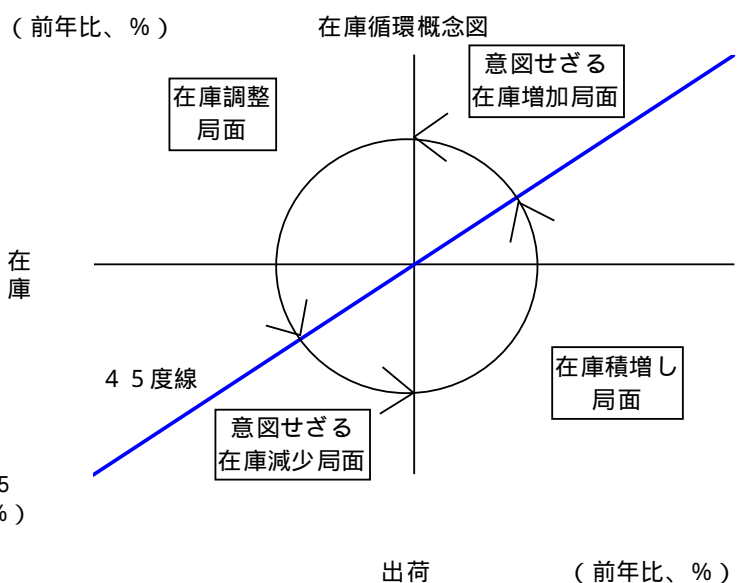
（注）凡例の括弧内の数字は付加価値ウェイト（鉱工業＝10,000）
 （出所）近畿経済産業局「鉱工業生産動向」



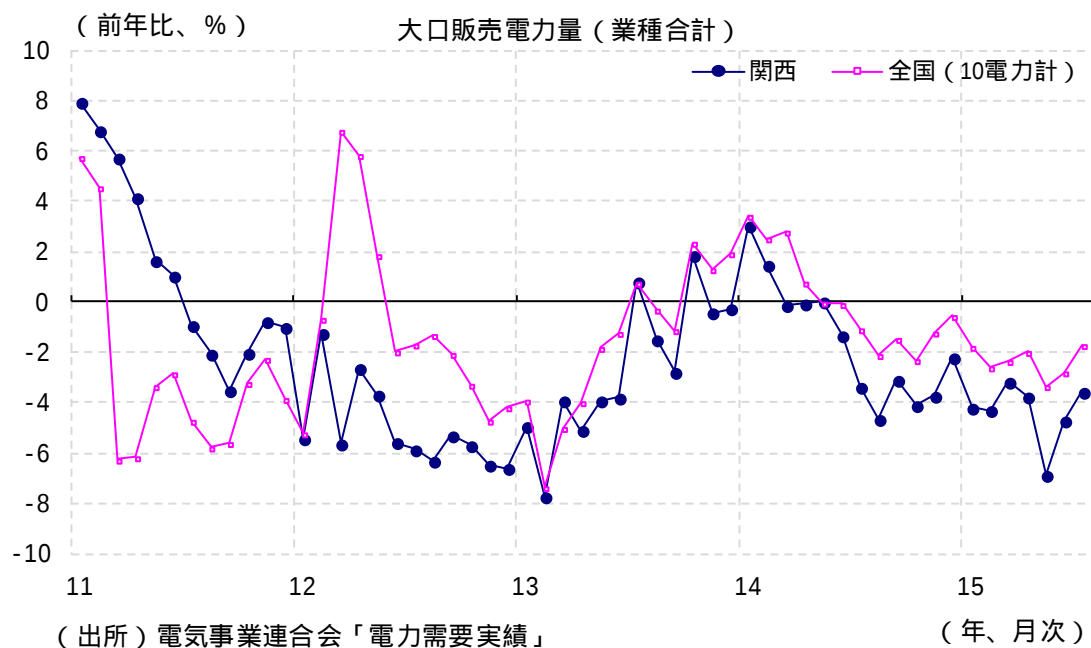
○7月の近畿地区の鉱工業出荷は前月比 +0.5%と2ヶ月連続で増加した。電気機械、石油・石炭製品、輸送機械などが減少したが、金属製品、はん用・生産用・業務用機械、化学（除.医薬品）などが増加した。鉱工業在庫は同 +1.2%と4ヶ月連続で増加した。輸送機械、プラスチック製品などが減少したが、化学、石油・石炭製品などが増加した。



(注) 数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値
 直近15年3Qの出荷、在庫は7月の前年比
 (出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

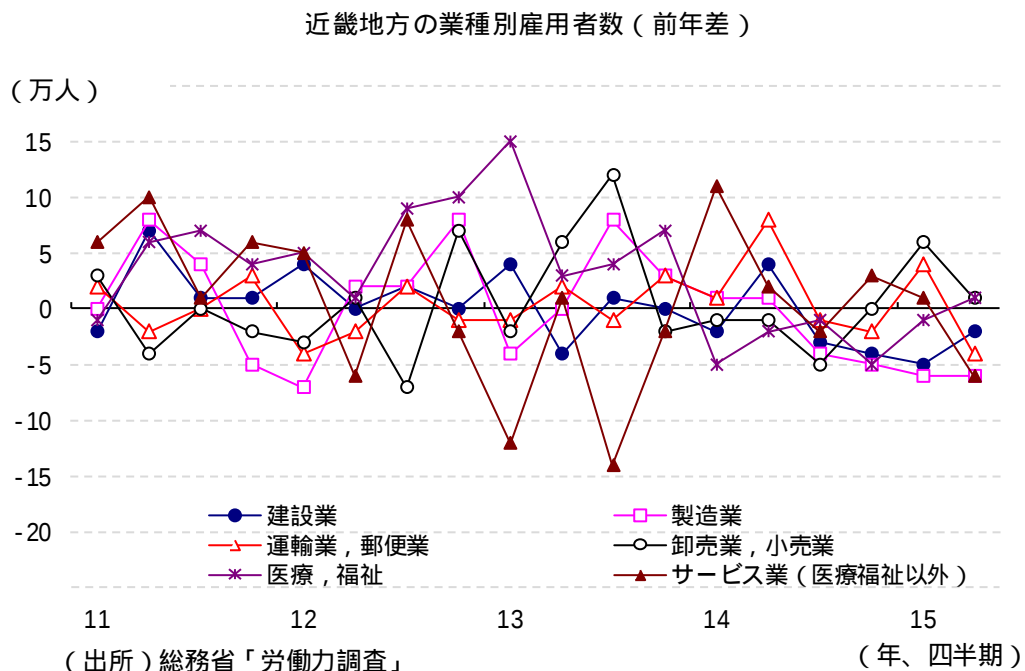
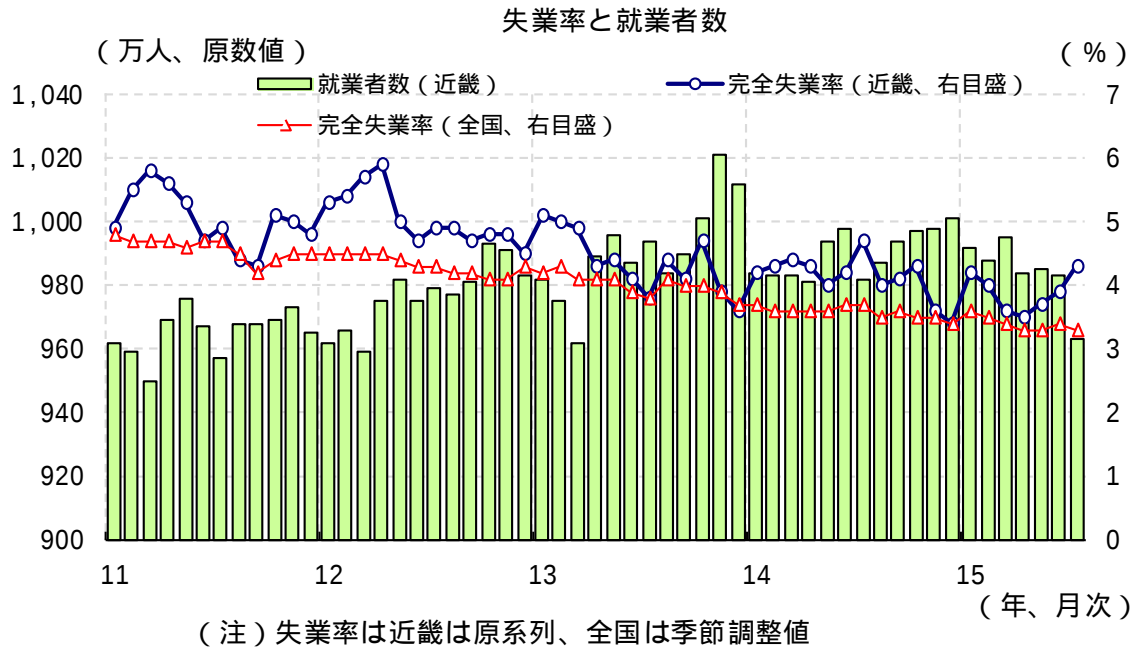


- 7月の関西電力の大口販売電力量（契約電力500kw以上の産業用需要）は、前年比 - 3.6%と14ヶ月連続で減少した。業種別にみると、製造業では主要11業種のうち、化学、窯業・土石、非鉄金属の3業種が前年実績を上回ったが、他の8業種は前年実績を下回った。特に鉄鋼、繊維などで減少幅が大きい。非製造業では、その他は前年実績を上回ったが、鉄道業、水道業は下回った。

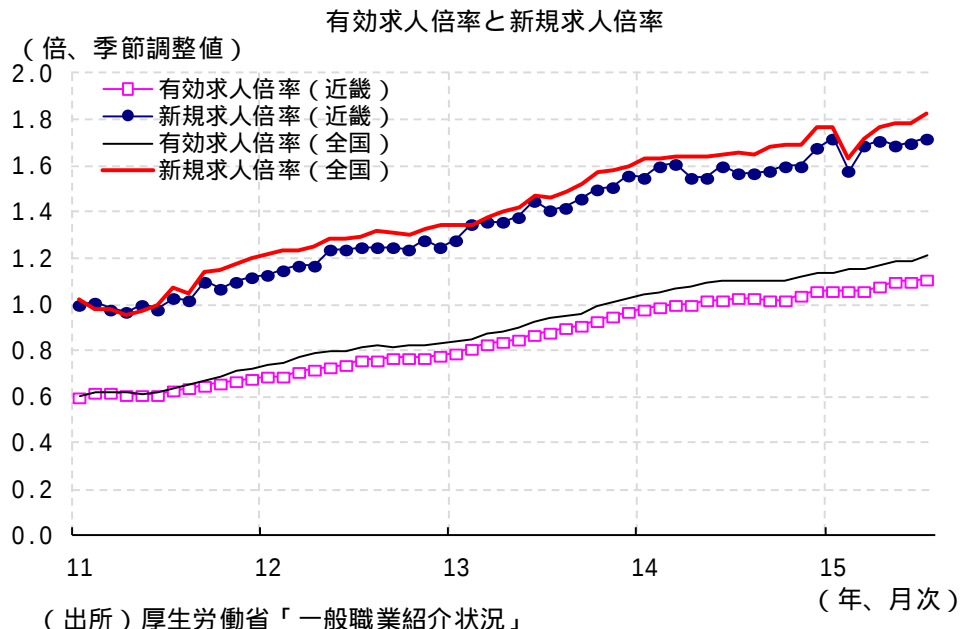


3. 雇用 ～持ち直しの動きがみられる

○7月の近畿の完全失業率は前年差 - 0.4%ポイントの4.3%と6ヶ月連続で低下した。雇用者数は前年差17万人の減少、就業者数は同19万人の減少となり、完全失業者数は同5万人減少した。業種別(4～6月期)に雇用者数をみると、卸売業・小売業などが増加する一方、建設業、製造業、運輸業・郵便業などが減少した。今後の雇用情勢は、景気に足踏み感が出ていることから、横ばいとなる可能性がある。

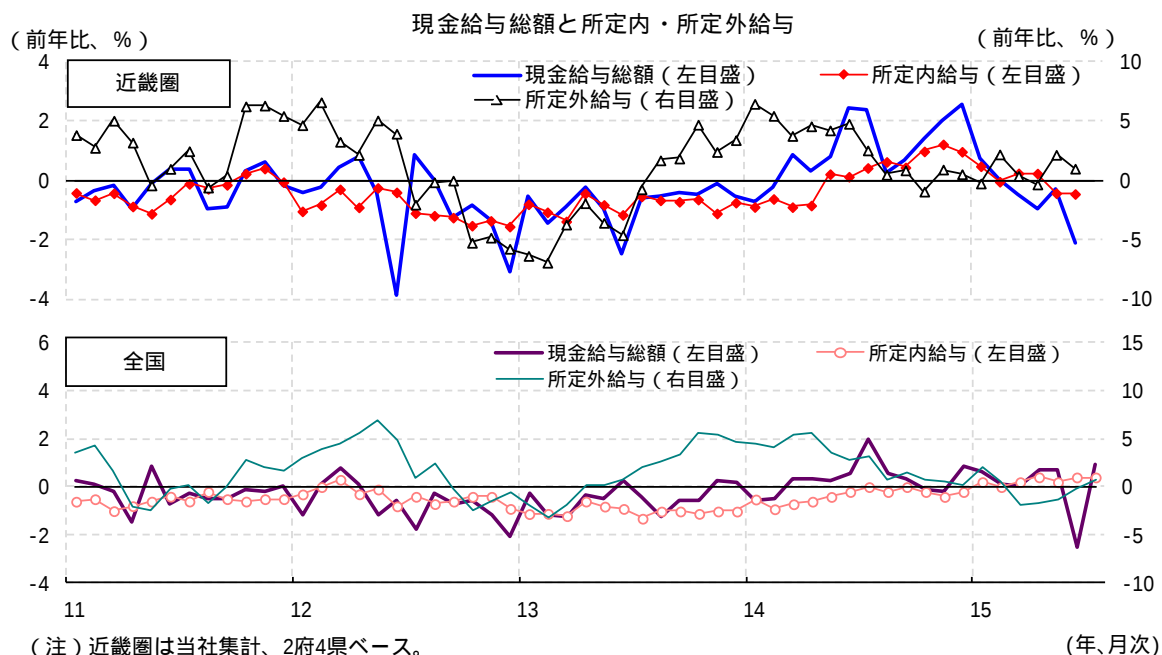


- 7月の近畿圏の求人動向は、有効求人数が前月比 +0.4%と2ヶ月ぶりに増加、有効求職者数は同 -0.4%と5ヶ月連続で減少し、有効求人倍率は1.11倍と前月より上昇した。一方、有効求人倍率に先行する新規求人倍率は1.72倍と2ヶ月連続で上昇した。新規求人数が前月比 -0.7%と2ヶ月連続で低下したが、新規求職申込件数が同 -1.5%と2ヶ月連続で減少した。

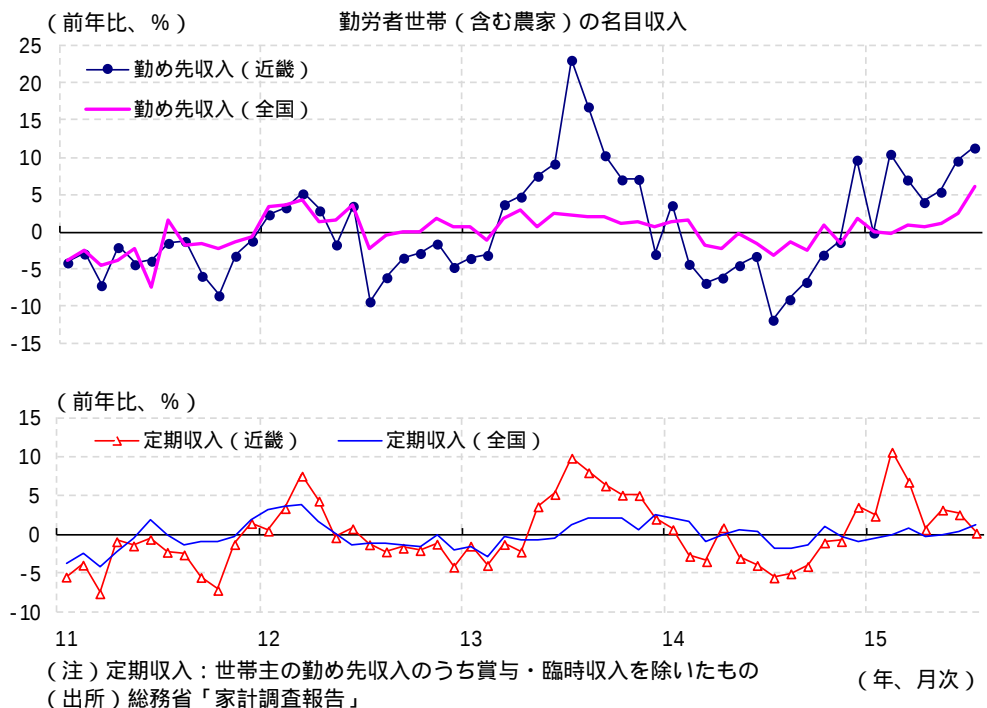


4. 賃金 ～持ち直しが一服している

- 6月の近畿圏の現金給与総額と所定内給与は、前年比 -2.1%の43万円と5ヶ月連続で減少した。定期給与は同 -0.4%と2ヶ月連続で減少、所定外給与は同 +1.0%と2ヶ月連続で増加したが、所定内給与は同 -0.5%と2ヶ月連続で減少した。今後は、賃上げによる所定内給与の増加が見込まれるものの、全体では横ばい圏での推移が見込まれる。

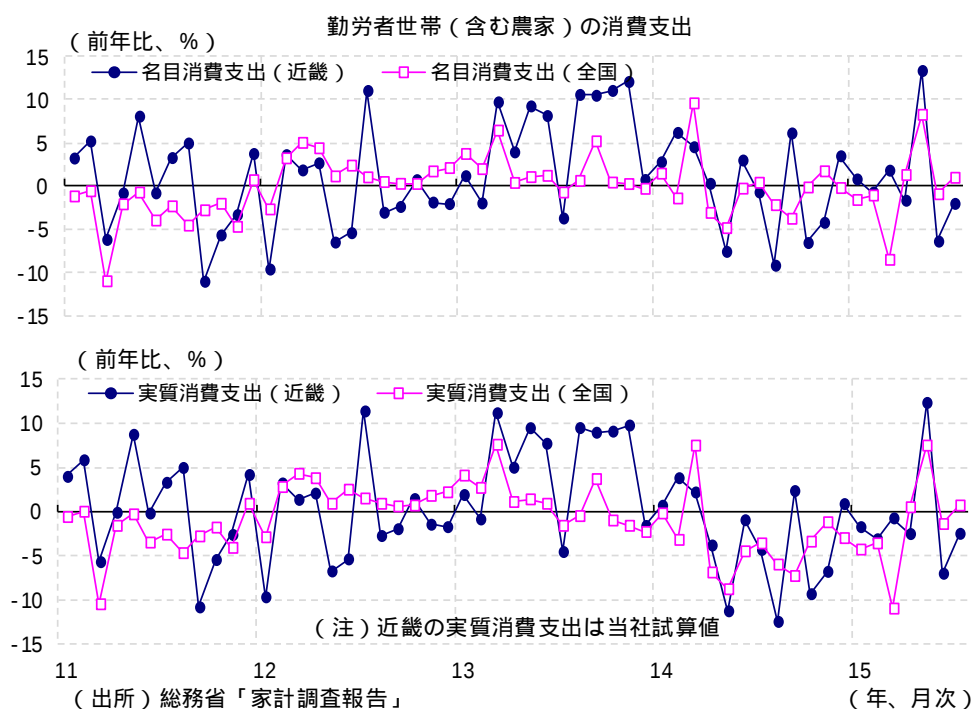


- 家計調査によると、7月の近畿圏の勤労者世帯（含む農家）の勤め先収入は前年比+11.4%の57.6万円となった。また、世帯主の勤め先収入は前年比+10.1%の50.6万円と6ヶ月連続で増加した。世帯主の勤め先収入の内訳をみると、賞与・臨時収入を除いた定期収入が同+0.3%の34.9万円と小幅ながら8ヶ月連続で増加した。

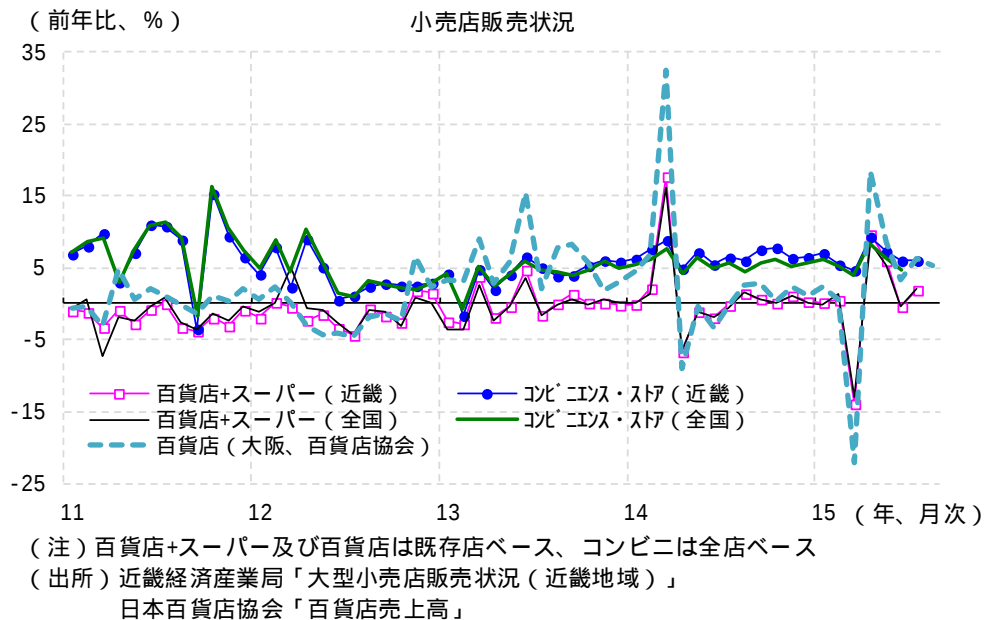


5. 個人消費 ～持ち直しの動きが一服している

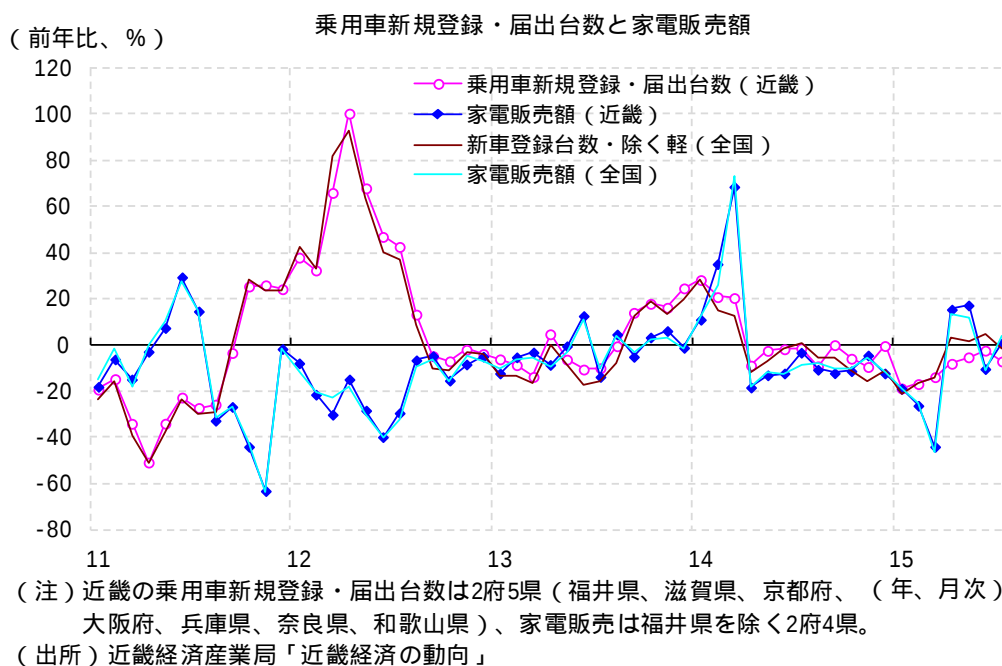
- 家計調査によると、7月の近畿圏の勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出は前年比-2.0%と2ヶ月連続で減少し、物価の上昇分を除いた実質でも同-2.5%と2ヶ月連続で減少した。関西の個人消費は、持ち直しの動きが一服している。今後は、実質所得の持ち直しが限定的となる中、横ばい圏での推移が続くと見込まれる。



- 7月の近畿地区の大型小売店（百貨店＋スーパー）の販売額は、既存店で前年比＋1.9％と2ヶ月ぶりに増加、全店では同＋3.0％と4ヶ月連続で増加した。コンビニエンス・ストアの販売額（全店）は同＋6.0％と29ヶ月連続の増加となった。8月の大阪の百貨店売上高（百貨店協会）は、店舗調整後で同＋5.3％と5ヶ月連続で増加となった。

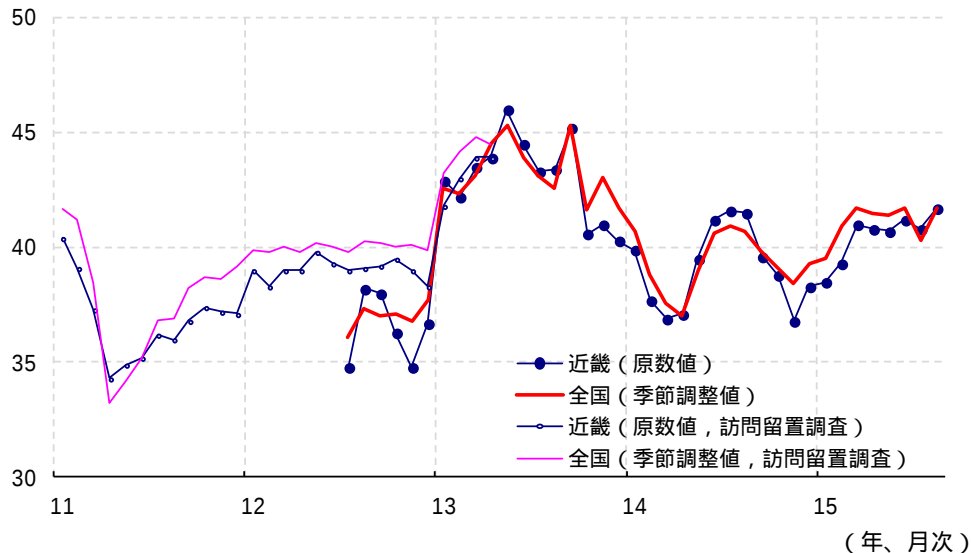


- 7月の近畿地区の乗用車新規登録・届出台数は前年比－7.1％と16ヶ月連続で減少、軽自動車の大幅な落ち込みに加え小型車も減少し、全体を引き下げた。府県別では2府5県（福井を含む）全てで減少した。また、7月の近畿地区の家電販売は、前年比＋0.8％と2ヶ月ぶりに増加した。パソコン(本体)などが前年を下回ったものの、理美容健康器具、洗濯機などが前年を上回った。



- 消費者マインドを表す消費者態度指数（近畿、一般世帯、原数値）は、8月は前月差+0.9ポイントの41.7と2ヶ月ぶりに上昇したが、均してみると横ばいで推移している。物価上昇が緩やかになってきているものの、名目賃金の持ち直しが一服している。今後は、日用品を中心に物価が再び上昇し実質購買力が伸び悩むことへの懸念等から、消費者マインドは横ばい圏で推移しよう。

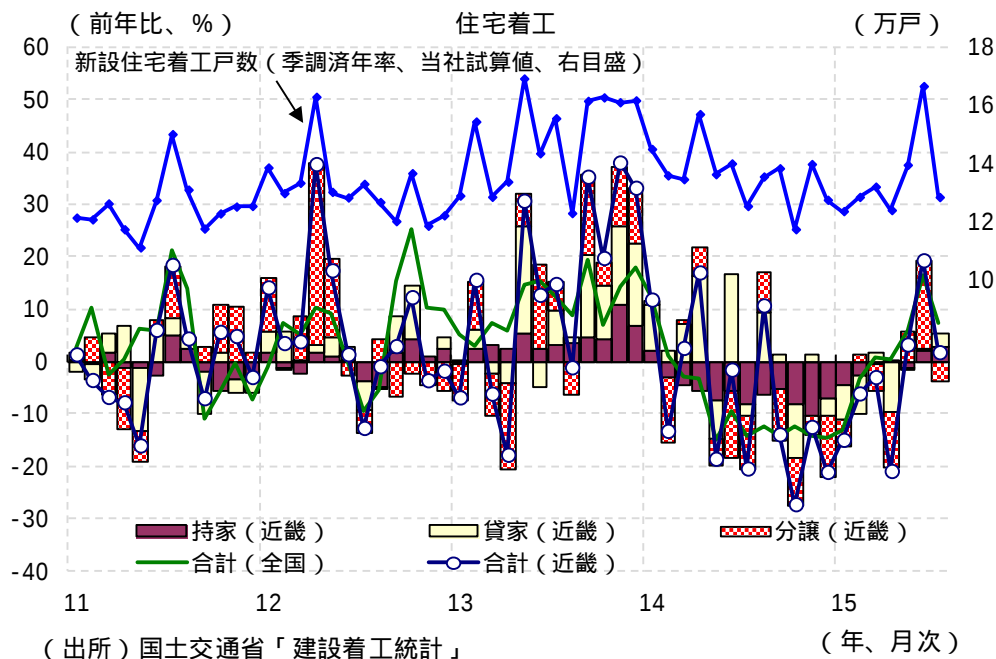
消費者態度指数（一般世帯、原数値）



（注）2013年4月調査より調査方法等を変更したため、それ以前の訪問留置調査の数値と不連続が生じている。
郵送調査の2012年7月～2013年3月は試験調査による参考値。
（出所）内閣府「消費動向調査」

6. 住宅投資 ～持ち直しの動きがみられる

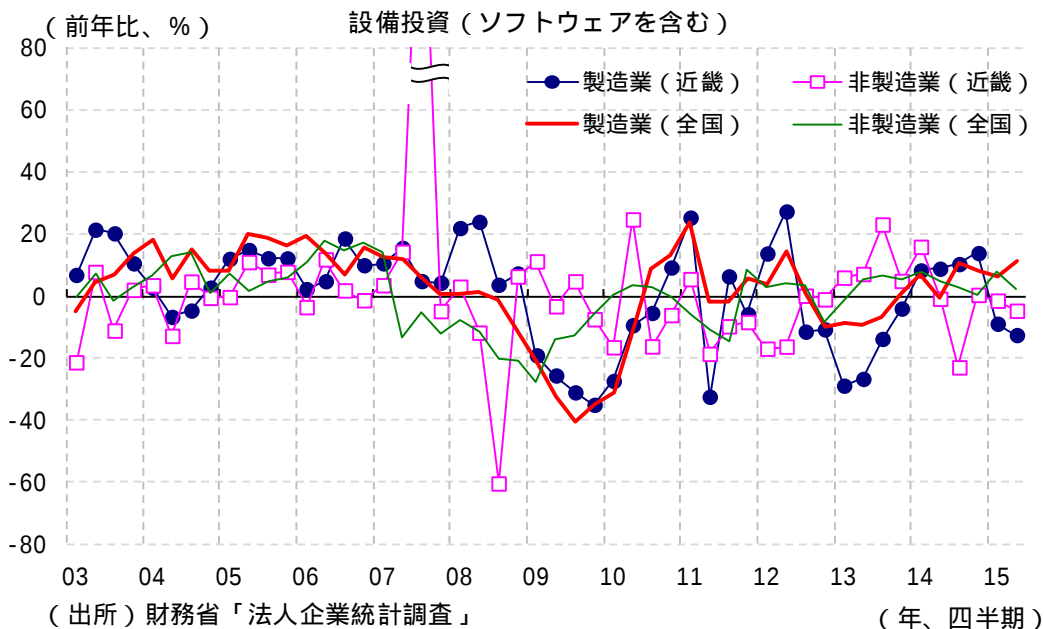
- 7月の近畿圏の住宅着工戸数は、前年比+1.7%の10,210戸と3ヶ月連続で増加した。分譲マンションは3ヶ月ぶりに減少したが、持家、貸家はそれぞれ2ヶ月連続で増加した。一方、季調済戸数は年率12.8万戸と3ヶ月ぶりに減少した。近畿の住宅着工は、消費税率引き上げ前の駆け込みの反動で減少した後、総じて横ばい圏で推移してきたが、足下で大きく振幅しながらも持ち直しの動きがみられる。



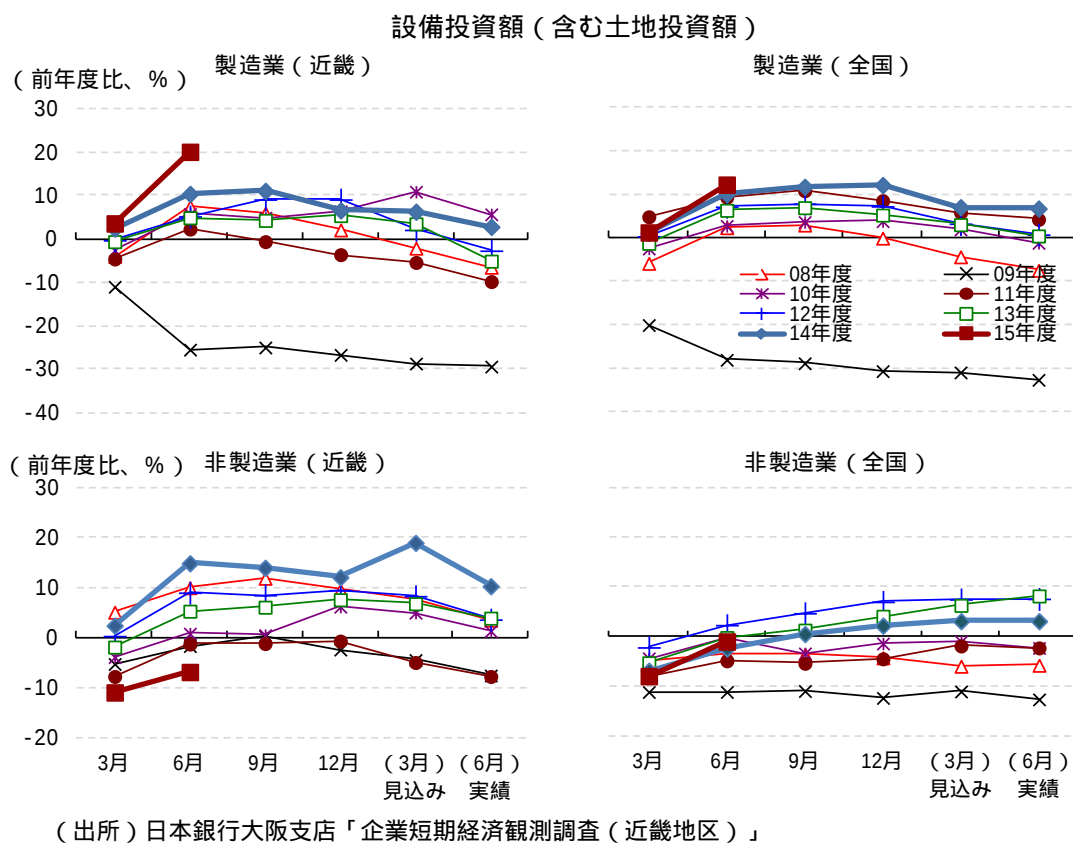
（出所）国土交通省「建設着工統計」

7. 設備投資 ～持ち直しが一服

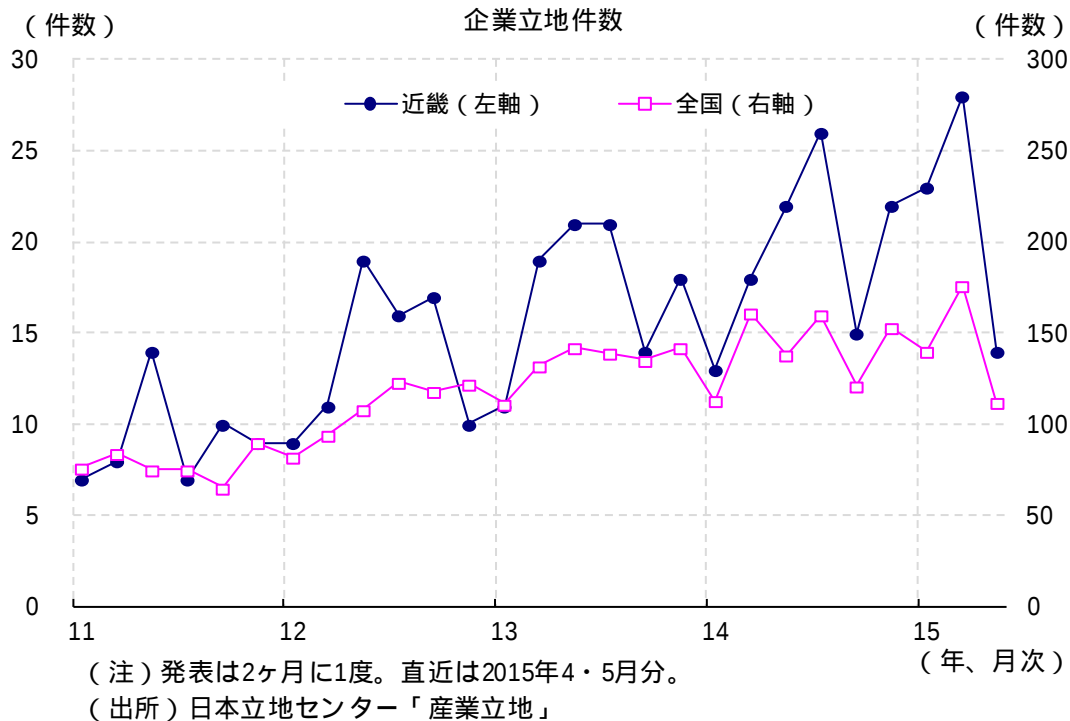
○2015年4～6月期の関西の大企業の設備投資（ソフトウェアを含む）は前年同期比 - 8.0%と2四半期連続で減少した。製造業は同 - 12.4%と2四半期連続で減少、非製造業も同 - 4.6%と2四半期連続で減少した。



○日銀短観6月調査によると、関西の14年度の設備投資は、全産業で（全規模）で前年比 + 7.5%、製造業（全規模）で同 + 2.8%、非製造業（全規模）で同 + 10.3%といずれも増加した。また、15年度は、全産業で同 + 2.9%、製造業で同 + 20.1%、非製造業で - 6.9%と見込まれている。

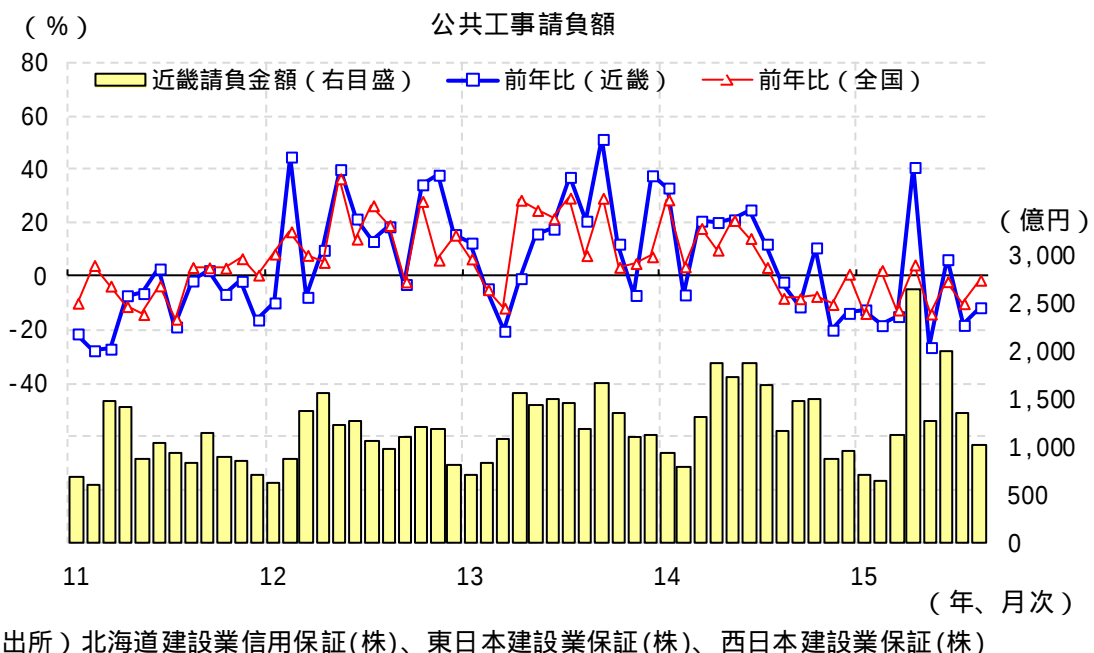


- 近畿地区の企業立地は振れを伴いながら増加傾向を続けていたが、2015年4・5月の立地件数は14件と、高水準であった2・3月（28件）から大幅に減少した。前年同期（22件）と比べても減少している。



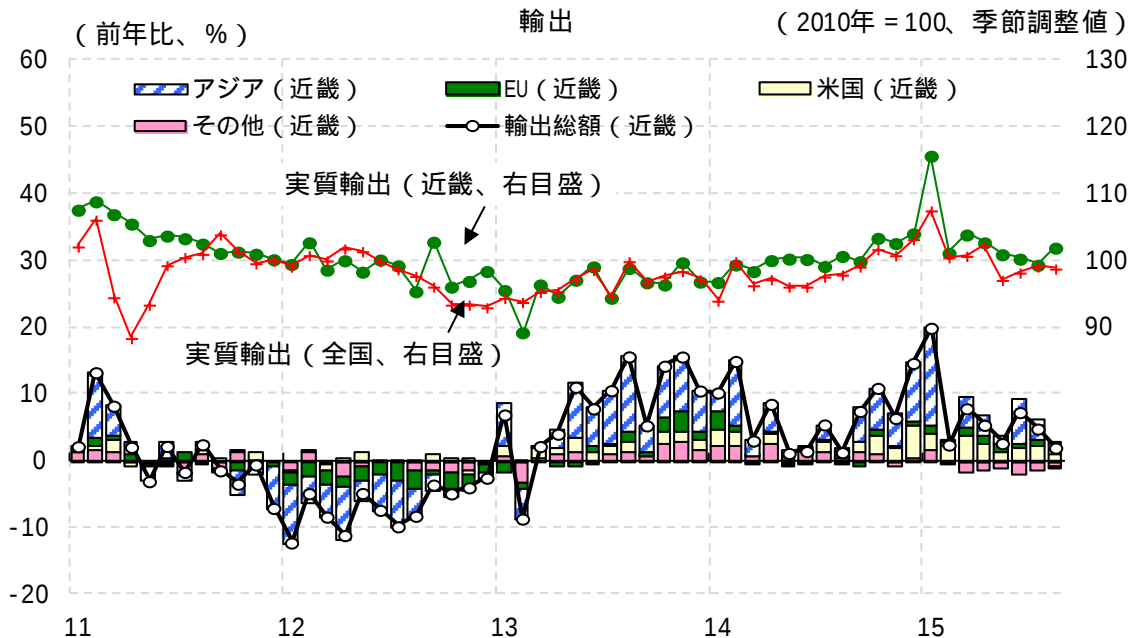
8．公共投資 ～横ばい圏で推移している

- 8月の近畿地区の公共工事請負額は、前年比 - 11.6%の1,032億円と2ヶ月連続で減少したが、均してみると横ばい圏で推移している。府県別では兵庫県、奈良県が増加したが、他の府県は減少した。発注者別では、独立行政法人、その他は増加したが、国、都道府県、市町村などは減少した。今後については、2014年度補正予算の効果が一巡しているため、横ばい圏での推移が見込まれる。

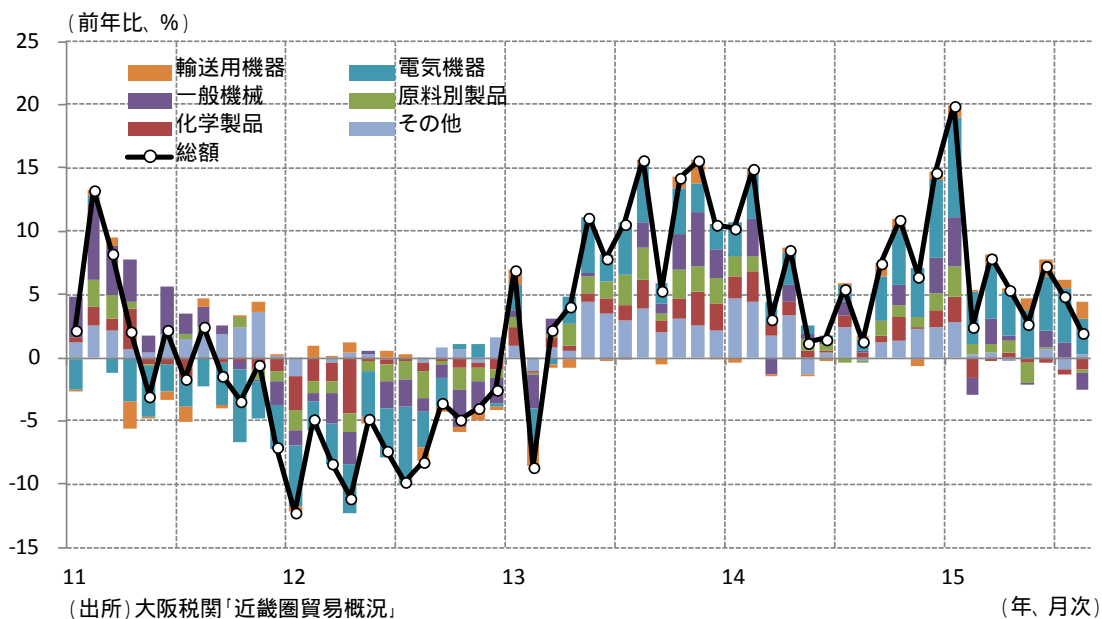


9. 輸出入 ～輸出は弱含み、輸入は横ばい圏で推移

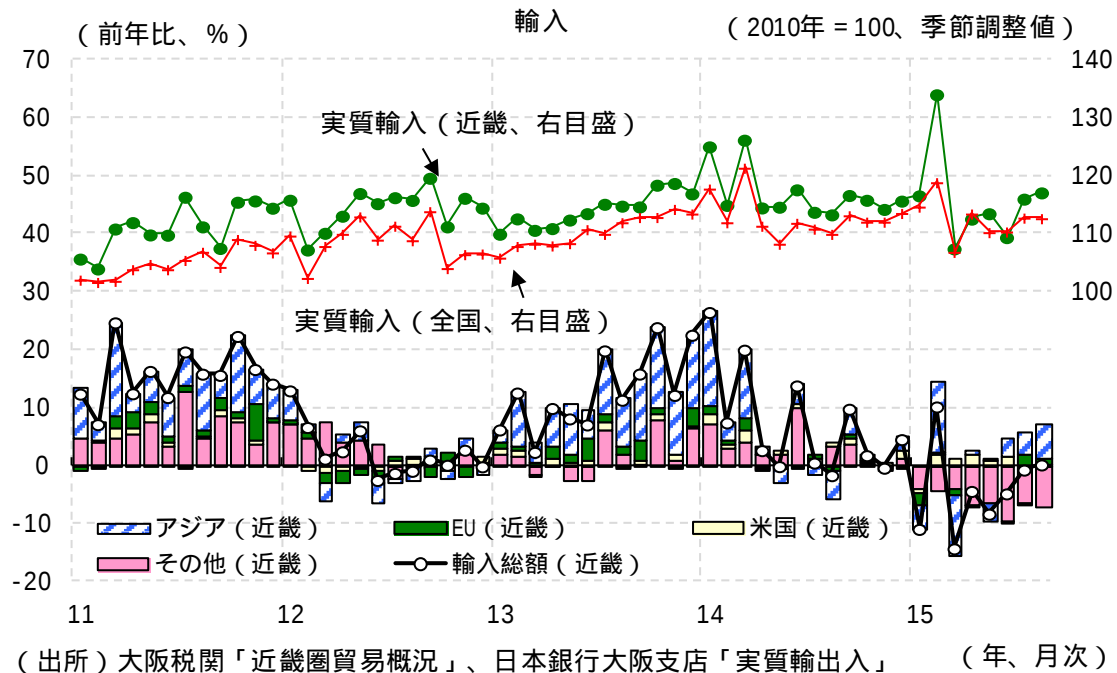
○8月の近畿地区の実質輸出は前月比+2.6%と5ヶ月ぶりに増加した。一方、8月の輸出額（通関統計速報）は前年比+2.0%と30ヶ月連続で増加した。地域別では、アジア、米国が増加した中、中国は2ヶ月連続で減少した。品目別では通信機、自動車が増加した。今後は、海外経済の緩やかな回復の下、次第に下げ止まってくると見込まれる。



（出所）大阪税関「近畿圏貿易概況」、日本銀行大阪支店「実質輸出入」

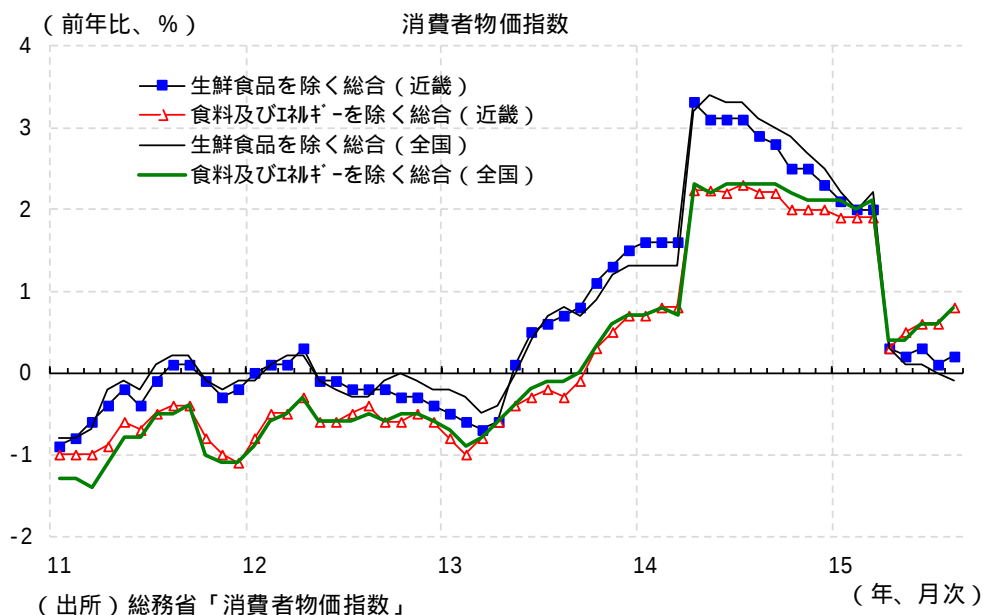


○8月の近畿地区の実質輸入は、前月比+0.9%と2ヶ月連続で増加した。また、8月の輸入額（通関統計速報）は前年比+0.3%と6ヶ月ぶりに増加した。地域別ではその他が減少したが、アジア、米国、EUが増加した。品目別では原油及び粗油、天然ガス及び製造ガス等が減少したが、通信機、衣類及び同付属品が増加した。今後は、国内需要動向を反映し横ばい圏の推移が見込まれる。



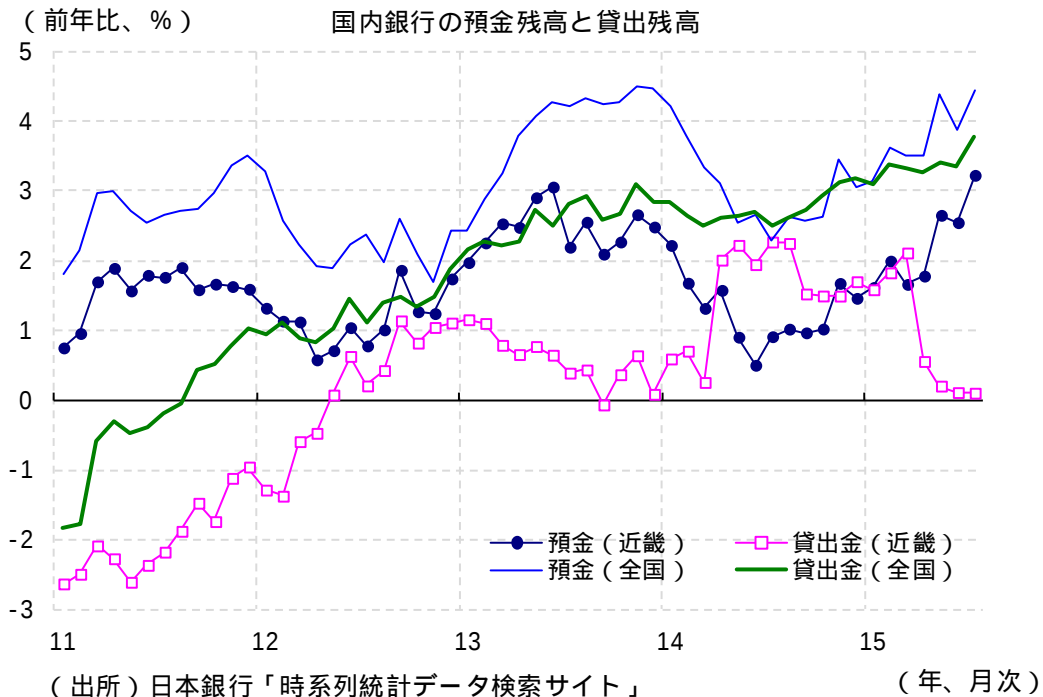
10. 物価 ～緩やかに上昇

○8月の近畿圏の消費者物価は、総合で前年比+0.5%と27ヶ月連続、生鮮食品を除く総合で同+0.2%と28ヶ月連続、食料・エネルギーを除く総合で同+0.8%と23ヶ月連続で上昇したが、消費税率引き上げの影響が一巡した後、伸び率は緩やかとなっている。今後は、円安による輸入物価上昇が上昇圧力として働く一方、エネルギー価格の下落が低下圧力となるため、物価は横ばい圏で推移しよう。



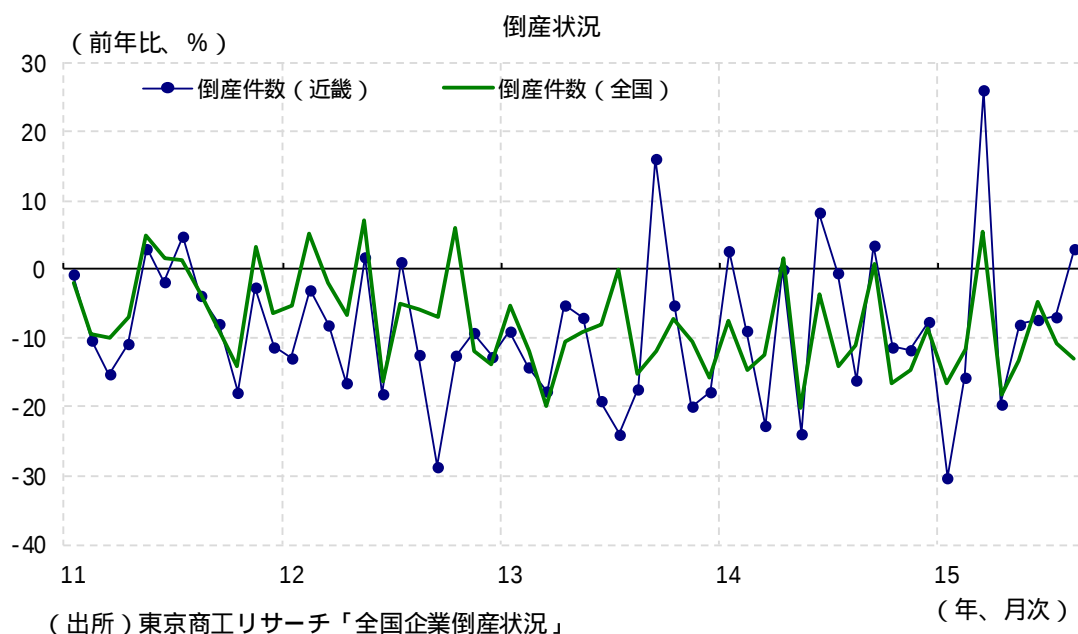
11. 金融 ～預金は増加、貸出は横ばい

○7月の近畿地区の預金残高（国内銀行ベース）は、前年比+3.2%の107.5兆円となった。定期性預金は前年比で減少が続いているが、要求払預金が増加している。また、近畿地区の7月の貸出残高（国内銀行ベース）は、同+0.1%の59.6兆円とほぼ横ばいとなった。日銀大阪支店では、企業向けや住宅ローンの増加等が貸出の増加要因とみている。



12. 倒産 ～倒産件数は増加、負債総額は減少

○8月の近畿地区の倒産件数は、前年比+3.0%の172件と5ヶ月ぶりに増加したが、低めの水準で推移している。府県別にみると、滋賀、京都、和歌山は減少したが、大阪、兵庫、奈良は増加した。また、倒産企業の負債総額は、同-74.1%の89億円と3ヶ月連続で減少した。府県別では、滋賀、大阪、奈良、和歌山で減少した。



【全国及び東海地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	→		→	輸出	全国	↘		→
	東海	→		→		東海	↘		→
	関西	→		→		関西	→		→
個人消費	全国	→		→	輸入	全国	→		→
	東海	→		→		東海	↘		→
	関西	→		→		関西	→		→
住宅投資	全国	↗		→	生産	全国	→		→
	東海	↗		→		東海	↘		→
	関西	↗		→		関西	→		→
設備投資	全国	↗		↗	雇用	全国	↗		→
	東海	↗		↗		東海	→		→
	関西	→		→		関西	↗		→
公共投資	全国	↗		↘	賃金	全国	↗		↗
	東海	→		→		東海	↗		↗
	関西	→		→		関西	→		↗



：晴れ



：薄日



：曇り



：小雨



：雨

- （注）1．3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感（改善、横ばい、悪化）を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
 2．シャドー部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。
 3．全国は9月2日時点の予報。全国の天気マークは、晴れ、曇り、雨の3種類のみ。

項目		8月のコメント	9月のコメント
1. 景気全般	全国	持ち直しが一服	横ばい圏で推移している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動きがみられる
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
2. 生産	全国	持ち直しが一服	横ばい圏で推移している
	東海	横ばい圏で推移している	弱含んでいる
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
3. 雇用	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる
4. 賃金	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	持ち直している	持ち直している
	関西	持ち直しが一服している	持ち直しが一服している
5. 個人消費	全国	持ち直しが一服	持ち直しが一服
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	持ち直しの動きが一服している	持ち直しの動きが一服している
6. 住宅投資	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直している
	関西	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる
7. 設備投資	全国	緩やかに増加している	緩やかな増加基調
	東海	増加している	増加している
	関西	持ち直しが一服	持ち直しが一服
8. 公共投資	全国	減少している	増加している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
9. 輸出入	全国	輸出は弱含み、輸入は弱い動きがみられる	輸出は弱含み、輸入は横ばい圏で推移している
	東海	輸出、輸入ともに弱含み	輸出、輸入ともに弱含み
	関西	輸出は弱含み、輸入は横ばい圏で推移	輸出は弱含み、輸入は横ばい圏で推移
10. 物価	全国	企業物価は下落、消費者物価は横ばい	企業物価は下落、消費者物価は横ばい
	東海	緩やかに上昇	横ばい圏で推移している
	関西	緩やかに上昇	緩やかに上昇
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金は増加、貸出は横ばい	預金は増加、貸出は横ばい
12. 倒産	東海	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数、負債総額ともに増加
	関西	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数は増加、負債総額は減少

（注）シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目（11.金融、12.倒産を除く）

「グラフで見る関西経済」の見方

【今月の景気判断】

- レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

- 3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。
- 現況・・・各項目の現在の「水準」を 晴れ、薄日、曇り、小雨、雨の5段階に分類。
- ～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

（注）

現況をあらわす天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が 改善、悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

- 各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

- 全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。
- 右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

- 景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

- 当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

- 発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び東海地区との比較】

- 【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国（グラフで見る景気予報）と東海地区（グラフで見る東海経済）の判断と、一覧表で比較。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡下さい。